

ノヤマ通信

vol.4 (2022.長月)



森のようちえんヒュッテ

【7月に行った活動：4日桂川渓谷、7日山の基地、14日たこやき島、21日桂川渓谷、8月は夏休み】



7/4は雨の中でお散歩、7/7は手打ちうどんづくりに挑戦！

●活動を見つめるコラム

「子どもたちの感性を新鮮に保ち続けるために」

『センス・オブ・ワンダー』という本をご存じでしょうか。アメリカの生物学者、レイチェル・カーソンが書いたもので、彼女が自然の中で親戚の子どもと過ごした経験から、自然とのふれあいの大切さを語った本です。

この中でカーソンは、「生まれつき備わっている子どものセンス・オブ・ワンダー(sense of wonder＝自然の神秘さや不思議さに目を見張る感性)をいつも新鮮に保ち続けるためには、私たちが住んでいる世界の喜び、感激、神秘などを子どもと一緒に再発見し感動を分かち合ってくれる大人が少なくともひとりそばにいます必要がある」と記しています。自分がこの本に出会ったのは学生時代ですが、子どもが生まれてからは、「そういう大人でありたい」と以前よりも強く思うようになりました。

「子どもと一緒に再発見する、感動を分かち合う」ということは、子どもが何やら握りしめて「見て見て～！」とやってくる、日常でよく出会うあの場面の一つ一つを大切にしよう、ということだと捉えています。忙しい毎日の中では、つい受け流してしまいそうなことを、森のようちえんの中では少し意識して寄り添う。子どもに何を与えるか、ではなく、どう受け止めるか、を考える。そういう空間を参加するみなさんと一緒につくっていけたらと思っています。(ゆ)



▲7/21 森のようちえん@桂川渓谷 (西予市野村町)

山の基地

【7月に行った活動：10日開放日、24日イベントDAY、8月に予定していた開放日は体調不良のため中止🙇】

●7/10の開放日はたくさんの親子連れでにぎわいました。ハンモックで遊んだり川で遊んだり、気持ちよく過ごしてもらいました。

●24日のイベントDAYは竹で水鉄砲づくり。参加者の年齢層が低かったので、シンプルな作り方にしましたが、その結果、うまく飛ばなかったときの試行錯誤のあそびの部分まで削ぎ落としてしまった形になり、もう少し工夫の余地があったなあと反省。またどこかでリベンジ企画をやりたいです。



その他の活動

●7/9高山景観調査報告会に出席

昨年度、西予市明浜の高山地区で担当した植物調査の結果について、住民の方に報告を行いました。ほかにも建築物などの調査をされた先生の発表があり、現在の景観の裏側にあるストーリーを知ることができて勉強になりました。

●7/27三瓶・蔵貫地区で観察会の対応

三瓶の小学校児童を対象に行われた観察会の運営を手伝ってきました。地区を流れる蔵貫川で川にすむ生きものの観察などを行いました。



●8/11城川・高川地区で観察会の対応

毎年、高川地区の児童を対象に行っているビオトープ観察会＆環境学習会で講師を務めました。このビオトープは水生昆虫が豊富で良好な生態系が守られています。学習会では、水辺の生態系を脅かすおそれのある外来生物の問題についてお話をしました。



●8/25オンラインイベントに出演

『地方移住“ホンネ”サロン』というイベントで、森のようちえんヒュッテなどの取り組みを紹介させていただきました。

●横吹溪谷に行ってきました（宇和島市津島）

イベントの下見で横吹溪谷に行ってきました。天然の滑り台や、飛び込みポイントもあり、大人も子どもも楽しめる場所でした。



いきもの情報

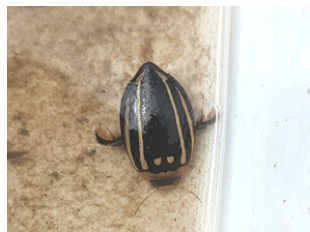
活動の中で出会った生きものたちを紹介します。



ラップウニ 危険

干潮時の海岸のやや深めのところで見られる。先がラップ状のトゲに毒があるので素手でさわらないように。

（7/14明浜・狩浜地区）
※たこやき島



シマゲンゴロウ

体長13mmくらいの小型のゲンゴロウ。ため池や湿地、水田などに生息する。昔に比べて数が減少している。

（8/11城川・高川地区）



コシマゲンゴロウ

体長10mmくらいの小型のゲンゴロウ。池沼、水田、休耕田などに生息。夏は灯火にも飛来する。
（8/11城川・高川地区）



よもやま話

「夢みる小学校」という映画を長女と一緒に観てきました。宿題やテストが無い、先生もいない「きのくに子どもの村学園」など、探究学習を中心とした独自のカリキュラムで運営されている学校の生徒たちの様子と、現場での大人の関わり方を見ることができる映画です。子どもを1番に考えた時、どんな教育の可能性が考えられるのか、いろんな形を見ることができました。

特に印象に残ったのは、自由と責任についての考え方です。私たちが自由について教えられる時、「責任」もセットだったように思います。自由を選択すれば、それ相応の責任も求められるというような。でも、それは本当なのか？あるべき状態なのか？と疑うようになりました。学園の理事長でもある堀さんは、「子どもには思う存分やってもらって、責任は大人がとればいい」という話をしていたのが強く印象に残っています。例えば、「そんなことをやって責任を取れるのか？」なんて、子どもに問うても無意味だなと。やったことないんだから、何が起こるのかもわからない。大人も子どもも、とことんやれる環境がある中で、成長していくものです。自分自身を振り返ってみても、責任のことを考えすぎずに取り組める環境があったからこそ、できたことがたくさんあります。新入社員時代の失敗を想うと、上司に頭が上がりません…。改めて、ちゃんと責任を取れる大人でありたいと思いました。
（ち）

7月末に防災士の養成講座を受講してきました。今後40年以内の発生確率は90%以上（2022年1月時点）と言われる南海トラフ巨大地震に向けて、ちゃんと備えをしなければなあと思いながら、何からやればいいのかを学びたかったので。

私たちが住んでいる宇和盆地は地質の特性から震度が大きくなるエリアで、最大震度7との予測もあります。とりあえずは家庭でできる地震対策として、家具の固定などを行います。住んでいる地区でできること、ノヤマカンパニーとしてできることも考えていきたいな、と思っています😓。（ゆ）



<発行> 一般社団法人

ノヤマカンパニー



愛媛県西予市宇和町稲生237-1

✉ noyama.company@gmail.com